

65 男装の英国陸軍女医ジェイムズ・バリ

柳澤波香

英国において女医のパイオニアと目されるのは、Elizabeth Blackwell (1821～1910) と Elizabeth Garrett Anderson (1836～1917) である。前者は一八五九年、女性として初めて英国医師会名簿に登録され、後者は一八六六年、婦人と子どもの為の診療所をロンドンに開設した英国初の女性開業医である。しかしながら、この二人の女医よりも半世紀程前に、正式な医師の資格を有し英国陸軍軍医となった女性がいた。当時、医師職は女性に開放されていなかった為、彼女は女性であることを隠し続け、生涯男装を通し、ジェイムズ・バリ (James Barry) と男の名を名乗り、男として振舞った。軍医バリが女性であることが判明したのは、その死後、埋葬の折のことであった。

彼女ジェイムズ・バリの出自については不詳。一七九五年という生年も確かなものではない。父親は、英王室の一員であるとか、ベネズエラの名將軍であるとか、又画家のJ・バリではないかなど諸説あり定かではない。彼女自ら出自について語ることはなかったようである。生涯を通じて上流階級との繋がりが深かったので上流階級の出身と見做すのが妥当であろう。

一八〇九年、男装の少女ジェイムズ・バリはエディンバラ大学医学校に入学する。これは彼女の父親ではないかと思われる複数の者の発案によるものであった。因みに当時、同医学校には最低入学年令はなかった。エディンバラ大学医学校卒業後、ロンドンの聖トマス病院で研修、王立外科学校の試験に合格したバリは一八一三年、英国陸軍軍医となった。バリは華奢で声は甲高く凡そ男性的ではなかったが、軍医となるのに身体検査は行われず、「ひげのない青年」と思われたのであった。

軍医バリは一八一六年、南アフリカのケープタウンへ赴任し、四十年余の間にマルタ島、ジャマイカ、セントヘレナ等を巡り、一八五七年、英国陸軍病院監察長官と

してカナダへ赴いた。

バリ医師は卓抜した外科医であり、当時極めて難しいとされた帝王切開術を成功させた。バリはその新生児の名付親となり、その子孫は現在も南アフリカに存続していると聞く。軍医として彼女は英兵士の健康管理に留意し数々の提言、改革をした。炎天下での軍事演習は熱射病、サンバーンの原因であると主張、上官と衝突もした。兵士の栄養摂取の面でも加工肉等に偏りがちな食事に野菜、果物、新鮮な肉、ワインを取り入れる旨提唱した。バリ自身は菜食主義者、飲酒はしなかった。

病院施設の衛生にも配慮し、清掃の徹底を図り、感染の予防に努めた。彼女は不正、欺瞞には激する性格で一部の上官や官僚とトラブルを起こしたりしたもの、人道主義者であり、精神疾患をもつ者、ハンセン氏病者に対する人道的対処を唱えた。また軍医としての任務の他、現地住民の診療も行い、さらに奴隷の境遇改善や監獄の環境改善にも関心を寄せた。バリの予防医学、又对患者関係に対する識見は当時としては大変進歩的であったと言えよう。

ジェイムズ・バリは一八六五年七月二五日ロンドンで没した。英国陸軍に提出された検屍報告書に依ると死因は下痢である。埋葬の準備をしていた雑役婦が、バリ医師が女性であることを見て驚愕した話は忽ち広く知れわたり、バリ医師の一生は戯曲化される程となった。英国陸軍病院監察長官を務めた人物が女性であったことは軍内に相当の衝撃を与えたが、大層興味深いことに、在ロンドンの英国陸軍軍医協会はその内の一室にジェイムズ・バリの名を冠した。彼女の軍医としての功績の大きさを表わすものである。